



こいのぼりの川渡しなど、
見どころ多い十川地区の
東の玄関口。

26匹から始まった「こいのぼりの川渡し」

左手に小野集落を眺めつつ国道381号を西へ行く。右に星神社、左下にこいのぼり公園があるところが十川の十川地区である。初夏、こいのぼりの群れが四万十川上空を泳ぐ。これに似た取り組みが全国各地で行われるようになって久しいが「こいのぼりの川渡し」の発祥はここ十川である。このイベントの凄いところは、どこかの模倣ではなく、オリジナルな発想であったことである。ヒントになる風景はあった。昭和48年5月のある日のこと、大正の打井川で鯉のぼりのロープが解けて風に流されている様子を見た十和村のある人が「これは面白い！そして美しい！鯉のぼりが縦に泳いでいてもいいじゃないか！」と、まさに膝を打つ思いでこのアイデアを村に持ち帰ったのが事の始まり。この翌年、役場の駐車場と向こう岸との間で最初の鯉のぼり26匹が四万十川上空を泳いだのである。このことは十和村閉村記念誌に詳しい。

宇宙とつながる郷社

小貝集落の産土神は白皇神社で、厳島神社も合祀されている。また、小貝には旧十川村(十川・川口・戸川・古城・地吉・広瀬・井崎)の郷社・星神社がある。祀られているのは北斗七星とされていて、これが星神社という社名の由来のように思うのだが、元は妙見大明神という社名だったようであるから、由来はそれではないのかもしれない。面白い物もある。境内に直径1mほどの丸い石が台座に据えられている。これは数十年前に、ある作業現場から出たものらしいのだが「空から降ってきた

石」とされている。星神社の社名、北斗七星、空から降ってきた石と「信仰対象が宇宙」というところが実に興味深い。さて、この星神社境内の神楽殿では、毎年5月と8月に、国の重要無形民俗文化財に指定されている幡多神楽が披露される。

最後にその名が変わる小貝川

小貝の集落は、星神社脇を流れる小貝川(通称 小貝谷)沿いの約2kmの間にある。この小貝川は四万十川に合流する地点だけを「はらい(祓い)川」と呼び、しめ縄が施されている。お祭りの時には集落の当番の人が古城まで水を汲みに行き、この場所でお祓いをするという。

四万十川対岸の小野と小貝の間に展開している瀬は「小貝の瀬」と呼ばれる。この付近は、四万十川の中でも屈指の鮎掛けポイントとして知られている。



星神社は絵馬も星の形！

町のうごき

(4月30日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	7,295	-3	男 1	15	35	24
女	7,899	-5	女 3	23	34	19
計	15,194	-8	計 4	38	69	43
世帯数	8,040	15	(4月中の届出)			

窪川地域 10,832人 大正地域 2,084人 十和地域 2,278人